✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧

✧　AMS91(アメリカ気象学会)に参加して

米国シアトルで開催中の米国気象学会定期大会（AMS91）に、日本の気象測器会社などの方々とブース展示等により参加する機会を得たので、大会の概要を速報する。

今年の学会は、日本からの直行便も多い西海岸のシアトルで開催されており、柳井迪雄先生（Yanai-Maruyama wave を発見、積雲対流と大規模場との相互作用などの顕著な業績を上げられた、（日本気象学会ホームページより））を記念した「Yanai Symposium」が開催されていることもあり、例年になく多くの日本人が参加し、Oral および Poster で数多くの発表がされている。数多くのセッションが開催されている中で、昨年あたりから増加しているのが再生可能エネルギーに関する発表で、米国では太陽光よりも風力発電に関する発表が数多い。今年の発表で特に目立つのは、wind ramp（風力発電の急激な変動）に関する発表で、これらをどの程度予報でき、運用にどう生かすかの発表が関心を呼んでいた。

企業展示は、ワシントン州コンベンションセンターのホールで開催され、地元企業のボーイング社を始め、数多くの気象関係企業が出展しており、2008 年の Recession からようやく立ち直り、中小規模の企業を中心に出展数が回復してきた。今年、特に増えた展示は、ライダーおよび lightning に関するもので、安価な超音波風速計の展示も数多く見られた。また、昨年から出展を始めた中国のレーダー会社（Beijing Metstar Radar Co., Ltd.）なども、新しい印象を展示に加えている。

例年と同様、気象学会そのものの規模の大きさとともに、自社製品、新規技術を積極的にアピールする企業展示、次代を担う子供たち向けに科学への興味を高めるイベントなど、conservative な日本人には見習うところの多い学会である。今年は中国及び韓国からの研究者と同様に多くの日本人の研究者が参加しており、「Yanai シンポジウム」も含め、気象界における日本の存在感をより感じることができる AMS91 となっている。

今年の学会は、27 日までさらに多くのカンファレンスが行われる。来年の AMS92 は、2012 年 1 月 22～26 日の期間、ルイジアナ州ニューオーリンズで開催される予定である。

（財団法人気象業務支援センター振興部長代理　登内道彦）